

# 「水」と「火」のある地域のほっとステーション

## 地域に点在する魅力的な拠点をつなぎ、コミュニケーションを生む場所

夕闇の中、JR横浜線中山駅から歩いて6、7分、中山5丁目の住宅街の中に、明るい光を放つ場所があります。ガラス越しに薪ストーブの炎が見え、そこにいる人たちも暖かさに包まれているように見えます。そんな魅力的な場所が、Coocoyaです。

Coocoyaをはじめとして、中山5丁目には文化交流拠点、カフェ、シェアオフィスなど、様々な活動拠点が点在しています。約25年前に地権者である齋藤さんが私設の文化施設「なごみ邸」をつくったのが最初のきっかけです。そこで、お茶会やクラシックコンサート、能など多彩な活動が行われてきました。その文化の香りと、緑が多く、古民家も多く残っている雰囲気ひかれて、多くの人たちが移り住み、カフェや多世代交流の場などが続々生まれましました。Coocoyaの管理人の関口さんは初めてこのまちを訪れたときに「都心に近いのに、緑も文化も適度にある、なんていい所なんだ」と思っ



草屋根や庭の緑と合わさって季節ごとに表情を変える建物。この日は駄菓子屋が開店

たと言います。

しかし、古くから住んでいる人と新たに移り住んだ人との交流が少ないため、新しい住民が自治会の取り組みを知らなかったり、逆に古くからの住民が新しい住民のことをわからなかったり、コミュニケーションには課題がありました。また、施設同士のつながりはあっても、あくまでも「点」であり、「線」や「面」でつながってはいなかった、という課題も課題でした。「ごちゃやれば、この魅力的な場所を（面）にできるのかな」と

というのが齋藤さんをはじめ、地域の人たちの思いでした。

そんな時、一軒の古民家が空き家になりました。もともと住居とシェアオフィスとして活用されていたのですが、多くの人たちが通る道路に面しているため、建築士でもある関口さんは「地域のインフォメーションセンターにぴったり」と考えます。そこで、半分はオフィス、半分は住居兼地域に開く場として改装するというプランを立てます。

しかし、改装するためにはある程度の費用が必要になります。そんな折に、ヨコハマ市民まち普請事業のことをインターネットで知ります。地域の関係者の方々に集まってもらって、助成金を活用してインフォメーションセンターをつくりたい、という話をしたところ、趣旨には賛同するものの、まち普請を知らない方からは「助成金をもらって、自由度がなくなるのは、どうかなあ」という意見が上がってきました。

しかし、話をする中で「逆に、行政



まち普請では草屋根と玄関、土間の敷設、内装や水回りの改築などを行った

たが、丁寧に伝えることで、徐々に理解を広げ、周りの人たちの巻き込むこともでき、仲間が増えていきましました。もともとの「点」の人たちが、バックアップしてくれ、徐々に「線」になることが実感できたそうです。

こうして足腰を強くしていき、見事2次コンテストも通過！いよいよ工事に着手します。まち普請の審査のプロセスで仲間が増えていたことで、工事の段階ではほとんど苦労はなかった、と関口さんは言います。「業者さんに頼むところは最低限にして、作業には地域の人たちが関わる形にしたところ、沢山の人たちが参加してくれました」とのこと。作業は人が人を呼び、参加者の中で、左官屋さんの技術にほれ込み、弟子



土間打ち作業の様子。左官職人さんに教わりながら住民の手で仕上げた



駄菓子屋さんの開店日には小学生や未就学児の親子で賑わっている

入りしてしまう人が出るほど。

井戸もきちんと使えるように整備し、薪ストーブ、薪風呂も設置、まさに「火」と「水」をテーマに、災害の時には井戸水も使え、煮炊きもできる防災拠点としての機能も持つことができるようになりました。そして、建築士でもある関口さんのセンスを生かし、1階は思わず道行く人が覗き込み、入りたくなる、魅力的な空間になりました。

月に数日開催する「駄菓子屋」のご主人は齋藤さん。すっかり地域の子どもたちの人気者になり、道を歩いていると声を掛けられることが多くなったそうです。月に「度」の「まねき市」では、アーティストによるプチマルシェが行われ、さらに人を呼びます。レンタルスペースとしても活用されているので、「スペース」などの

教室も開かれるようになりました。置かれている「アノ」はまちの「アノ」として、ふらっと来て弾いていく高校生、中学生などもいます。

このように人が集まる場所になっているCoocoyaですが、齋藤さん、関口さんはそれ以上の変化も感じています。

「通勤路を、Coocoyaの前の道に変えた、という人がいるそうです。何やっているのか、覗きながら通勤するのが楽しみみたい」「ここに住みたい、という人が増えているんですよ。空いている戸建てがあれば教えて、と度々聞かれる」と二人は言います。

「空き家は今後、絶対に増えていく。だから、その場所に対する関心度が上がっていくのは大事だと思う。それによって、参加者ではなく、自分がやる、という担い手が増えていくのが、本当の土地活用だと思えますよ」と齋藤さん。

一軒の空き家をリノベーションすることで「町の中に」点「が生まれます。それはつまり、その地域に新たな価値が生まれたと言えます。でも、その一軒で終わらずに次の一軒も造ることで「点」が「線」になり、さら

のお墨付きがもらえて良いんじゃない？」「いろんな人が関わることでできるかも」と前向きに考えが変わり、まち普請へのエントリーを決めます。

まち普請の申請、審査は、ちょうどコロナの時期と重なりました。例年であればイベントを行うなどして、地域に周知するというプロセスを踏みますが、それができませんでした。しかし、エントリーしたことを伝えるために、多くの人たちと連絡をとり、少しずつ伝えていきました。それは地道なプロセスではありません

には「線」から「面」になります。「面」になるといつかは、周遊が生まれ、周遊が生まれると「この地域は面白い」と感じた人が集まるようになる。中山5丁目で生まれているムーブメントは横浜市の空き家問題、さらには地域「コミュニティ」の活性という課題解決のモデルの一つなのではないでしょうか。Coocoyaはそのモデルの発信拠点としても、内外から注目を集める場所になるように感じました。

**「水」と「火」のある地域のほっとステーション (緑区)**

整備主体：Coocoya復活プロジェクト  
実行委員会

整備場所：緑区中山5丁目9番1号

整備内容：地域交流拠点の土間敷設・草屋根  
施工、井戸ポンプ設置、内装・水回り  
改築

竣工時期：令和4年1月

Access Map

至 町田 至 横浜

中山駅 JR横浜線

緑区役所 緑警察署 緑郵便局 緑郵便局南側 緑郵便局入口

整備場所